

井上雅彦 学位論文審査要旨

主 査 前 垣 義 弘
副主査 吉 岡 伸 一
同 岩 田 正 明

主論文

Effects of behavioral and functional training on Japanese preschool teacher knowledge and child behavior

(日本の就学前教師の知識と子どもの行動に対する行動的・機能的トレーニングの効果)
(著者：井上雅彦、井上菜穂)

令和3年 Journal of Positive Behavior Interventions DOI:10.1177/1098300721993531

参考論文

1. Survey of Japanese welfare facility staff and special school teachers facing difficulties at work with persons with challenging behaviors
(挑戦的行動のある人々の関わりに困難感を感じている日本の福祉職員と特別支援学校教師の調査)
(著者：井上雅彦、金子周平)
令和2年 Yonago Acta Medica 63巻 326頁～334頁
2. Reliability and validity of the Japanese version of the Behavior Problem Inventory-Short Form
(日本版行動問題調査票短縮版の信頼性と妥当性)
(著者：井上雅彦、稲田尚子、五味洋一、會田千重、志賀利一)
令和3年 Brain and Development 43巻 673頁～679頁
3. Interventions for students with problem behaviors: A workshop incorporating applied behavior analysis for Japanese teachers
(問題行動のある生徒に対する介入：日本人教師のための共同的应用行動分析ワークショップ)
(著者：井上雅彦、岸本智宏、福崎俊貴)
令和3年 Yonago Acta Medica 64巻 98頁～106頁

審 査 結 果 の 要 旨

本研究は、地域の保育所・幼稚園の教師を対象に、発達障害とその疑いのある子どもの問題行動に対応するための行動的・機能的アプローチに基づく研修プログラムを開発・実施し、教師の行動理論に関する知識、子どもの行動支援計画の作成と実施、子どもの行動変容において研修プログラムの有用性を検証したものである。研究の結果、対象とされた子どもの行動変容は支援計画でターゲットとされた行動だけでなくそれ以外の行動にも般化し、教師の行動変容に関する知識や機能的なアセスメントに基づくケーススタディーミーティングは、介入終了後1年後も維持した。本論文の内容は、発達障害に対する幼稚園、保育所ベースの心理社会的介入の実装モデルとして極めて有用な方法であり、我が国の発達障害幼児の治療ガイドラインにおいて課題となっている地域医療連携システムの発展に大きく寄与すると考えられ、明らかに学術水準を高めたものと認める。